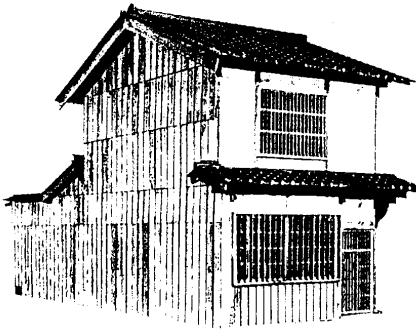


“創業の地”大開を歩こう

① 創業の家

1918年(大正7)～1922年(大正11)



1918年(大正7)3月7日、松下幸之助は大阪市北区西野田大開町844(当時)のこの家で「松下電気器具製作所」を創立した。

2階建ての借家の階下3室を工場に改造し、妻と義弟の3人で、扇風機の碍盤を製造する傍ら、最初

の製品「改良アタッチメントプラグ」、続いて「二灯用差込みプラグ」を考案・生産した。品質がよく価格も安かったため販売も伸び、同年末には従業員も20人を数えるまでに成長した。

② 第一次本店・工場 後に第四工場(金属部品製造工場)

1922年(大正11)～1936年(昭和11)



所主は、創業の家が手狭になったことから、1922年(大正11)、西野田大開町896番地(当時)のこの地に100坪余りの新工場を建設した。

この工場では回転式アタッチメントプラグ、二灯用クラスター(二股ソケット)、砲弾型電池式ランプなど10数種の製品を生産し、従業員数も50名を越す企業に発展した。

その後1929年(昭和4)には第四工場と改称し、金属部品製造工場となったが、所主は、第一次本店・工場のあったこの地に、終生本籍を置いていた。



③ 第二次本店・工場

1929年(昭和4)～1953年(昭和28)

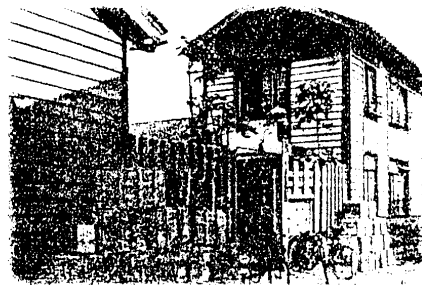


松下電気器具製作所は昭和初期の不況のなかでも発展を続け、1929年(昭和4)3月に社名を「松下電器製作所」と改称、続いて4月には「綱領・信条」を制定して、経営の基本方針を明示し、5月には大開町2丁目25番地(当時)のこの地に、第二次本店・工場を竣工した。延べ457坪のこの建物は、新本店、月産10万台の生産能力を持つランプ工場のほか、所主の住居や店員寮等も有する本格的なものであった。

1933年(昭和8)、業容の急速な拡大により、所主は事業の本拠を門真に移転した。その後もこの建物は、営業部門や貿易部門が使用し、1953年(昭和28)に完全移転をするが、土地は公園や幼稚

④ 第二工場(ランプ組立工場)

1925年(大正14)～1934年(昭和9)



1925年(大正14)、所主は砲弾型電池式ランプの販売量が増加し、第一次本店・工場も手狭になったため、ここ大開町4丁目28番地(当時)にランプ組立工場を建設した。

初めて「ナショナル」の商標を使用した角型ランプもこの工場から生まれ、自転車用だけでなく手提げ用にもなる便利さと、外観もスマートでコンパクトな箱型だったことから、需要は大幅に拡大し、大ヒット商品となった。